

CONTENTS COMBAT

2017.Aug.
No.497

8

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Niko Tavernise
©WORLD PHOTO PRESS 2017



【巻頭特集】

004 The Legend of Japanese Military Hobby
中田忠夫×小林太三
「あの頃」を語る

010 Combat Front Line Special
『ジョン・ウィック:チャプター2』

- チャド・スタエルスキ監督インタビュー
- 映画紹介
- ガン・インストラクター、タラン・バトラーの肖像
- スーツでサバゲを楽しめる!?「なりきりJW」開催!

【第1特集/SIG】

020 **グロック無双**

- グロックというハンドガン
- ザ・ベースガン考
- グロックのココが嫌い!!
- “銃番勝負”GLOCK G43
- コンペティション・シューターから見たグロック・シリーズ
- GLOCK TOYGUN CATALOG

【第2特集/ミリタリー】

058 ニッポンのカゴぶ

062 **海賊対処の最前線 後編**

092 The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ]

FIRST SPEAR AAC FROG KIT特集

- 解説: 松原隆 ●撮影: 山崎 学

117 **Militaria Roundup!**

アメリカ空軍フライトジャケット Part.2

【第3特集/トイガン】

066 東京マルイ

**ガスブローバック M4A1 &
電動ショットガン SGR-12**

072 WESTERN ARMS

New Products

- Photos & Text by SHOTGUN MARCY

018 **COMBAT FRONT LINE**

082 **NEW GENERATION STYLER**

- fujiwara

102 **トイガンニュース**

- 102 東京マルイ × GOD HAND エアソフトガン専用メンテツール
- 104 WA ベレッタM9A1《ウエポンライト・モデル》
- 105 タナカ S&W M327PC/M&P R8 5インチHW Ver.2

106 **サバゲ三等兵**

- 織本知之

110 **The World of Little Armory**

112 **突撃!!ぴっちよりな☆**

114 **WANCHER'S STYLE**

116 **DJちゅうの雑記ノート**

128 **PRESENT**

146 **GAME OTT meets サバゲ三等兵**
PlayStation VR『Farpoint』体験&レビュー!

154 **兵装嗜癖**

156 **ミリいじ技研**

196 **Goods & Accessory**

200 **中田商店グッズ**

202 **S&Grafグッズ**

129 **GAME OVER THE TOP**

132 **US SHOOTING LIFE 特別篇**

134 **TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ**

136 **アラフォーズ!**

138 **突撃!!ぴっちよりな☆ SPIN OFF!**

140 **トイガンズ・ジャンクション**

171 **三木DEナイフショー2017**

172 **サバゲ三等兵APS部!**

176 **編集長日誌**

177 **バックナンバーリスト**

178 **ミリタリー・コレクション**

180 **レア・ミリタリー・コレクション**

182 **A STITCH IN TIME**

183 **ショットショー・ジャパン 2017春**

184 **シネマ放浪記**

185 **新作DVD紹介**

186 **蛙のゆびさき**

188 **戦車兵通信 WORLD OF TANKS**

190 **コンバットマガジン・インフォメーション・センター**

191 **読者プレゼント応募方法**

192 **編集後記**

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。





中田商店が手がけたオリジナルのモデルガンの数々。

中田忠夫 Tadao NAKATA × Tazou KOBAYASHI 小林太三

「あの頃」

を語る。

東京御徒町に店を構える中田商店。
戦後からトイガン、軍装を扱うショップとして
日本のミタリー業界を牽引してきた同店の創業者と、
戦後すぐ、銀座の露店時代に通り詰めたことから
ミタリーの世界に入ったトイガンデザイナーが語る、
貴重な、日本のミタリー界の「あの頃」。

写真:織本知之 構成:狩野健一郎
協力:中田商店 ☎ 03-3839-6866 WEB www.nakatashoten.com

The Legend of JAPANESE MILITARY HOBBY



伝説の殺し屋 VS 世界中の殺し屋
追う者は、追われる者へ

(※)

[Movie 特別編]

ジョン・ウィック：チャプター 2

STORY

ロシアン・マフィアから愛車の'69年型マスタング BOSS 429を遂に取り戻し、名前をまだつけてない犬との隠遁生活を送るかに見えたジョン・ウィック。ところが深夜、ジョン宅を思いがけない客が訪れた。ジョンが殺し屋の世界から足を洗うきっかけになった“不可能な仕事”を過去に請け負った、イタリアン・マフィアのサンティエーノ・ダントニオだ。サンティエーノはその際にジョンと交わした、どの様な状況にあっても1度は願い事を聞かねばならない「誓印」をかざし、ジョンに再度仕事を頼もうとするが、堅気になった気のジョンは断ってしまう。するとサンティエーノは帰り際、こともあるうかジョン宅をグレネードランチャーで容赦無く吹き飛ばして去ったのだ。

住む場所を奪われたジョンはコンチネンタルホテルに犬と身を寄せざるが、オーナーのウィンストンに、誓印の掟を守るよう諭される。仕方なしにジョンは憎きサンティエーノに会いに行き、仕事の中身を聞くと、それはサンティエーノのボスで実姉のジアナの暗殺依頼であった……。

DATA 2017/アメリカ/原題: JOHN WICK : CHAPTER 2 / 122分 / 配給: ポニーキャニオン
©2017 Summit Entertainment, LLC. All Rights Reserved.

7月7日(金) TOHOシネマズ みゆき座ほか全国公開
johnwick.jp



深夜の訪問者。ジョンは「めんどくさそうなの来たよ……」と思ったに違いない。サンティエーノの暗殺依頼を心ならずも引き受けたジョンはイタリアへ飛んだ。

モチベーションが「奪われること」という、その凄腕故に呪われた伝説の殺し屋ジョン・ウィック（キアヌ・リーブス）がスクリーンに帰ってきた。

前作ではニューヨークを舞台に、愛車と愛犬デイジーの命を奪ったロシアン・マフィアをつかんで撃ち、つかんでは投げ、また撃つ「ガン・フォー」でフルボッコするジョンの姿が大変痛

快だったが、今作では舞台を前半のイタリア・パートと後半のニューヨーク・パートの2つを用意し、並み居るライバルの殺し屋や、イタリア4大マフィアの1つカモッラを相手に、前作を凌ぐ壮絶なガンファイトを繰り広げる。

監督は前作に引き続きチャド・スタエルスキ。同じ続投組ではコンチネンタル“殺し屋”ホテルの支配人ウィン

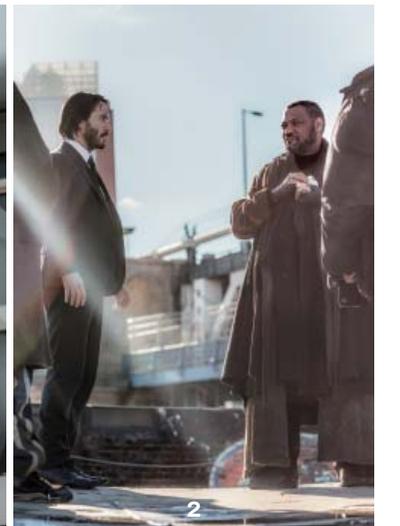


防弾チョッキの最新モード?! イタリアで仕立てたスーツは遂に防弾仕様に!

ストン役イアン・マクシェーンとマネージャー役ランス・レディック、自動車修理屋オレーリオ役ジョン・レグイザモといったお馴染みの演者が顔を揃え、新参者組ではコンチネンタルローマ支配人ジュリアス役フランコ・ネロ (e.g.『続・荒野の用心棒』ジャンゴ)、護衛対象者のジアナをジョンにままと殺害され復讐に燃えるカシアン役コモン、姉殺しの非道な伊マフィア、サンティエーノ役リカルド・スカマルチヨ、紅一点その側近アレス役ルビー・ローズといった、熟練のベテランからフレッシュな演者までが登場。そして、ローレンス・フィッシュバーンがニューヨークの日陰の帝王キングに扮し、キアヌと『マトリックス レボリューションズ』(03) 以来の共演を果たして

いるのが何だかうれしい。

上映時間が122分（前作は101分）とボリュームを増した分、例えばバイオリン弾きや相撲取りの殺し屋や、ウエポン・ソムリエを登場させるなどあれこれ趣向を盛り込んであるのが愉快。スタエルスキ監督のインタビュー記事も是非読んで欲しいが、そこで彼が言及した様に、全米3ガン・マッチのチャンピオン、タラン・バトラーの元でハードなトレーニングを積んだキアヌ扮するジョン・ウィックの“細か過ぎる”ガン・テクニックはきっと本誌読者の胸をズッキュン! と撃ち抜くことと思われる。ちなみに劇中ジョンが手にするGlockとAR-15はタランの銃工房タラン・タクティカル・イノベーション(TTI)の手による特別パッケージである。



1. カシアン役のコモンはキアヌに負けず劣らずのアクションセンスを披露した。2. この写真だけ見ると『マトリックス』シリーズの新作と勘違いしちゃう。3. 燃えよドラゴンが黄金銃へのオマージュか? 「鏡の間」を探るアレス嬢。4. こんな風にしばしばジョンはチャンバー・チェックを行う。確かに細か過ぎる。

[特集]

斬新なアイデアで設計された 戦闘のプロが認めた拳銃

今やハンドガンの主流となったポリマーフレーム。そのポリマーフレームを持つ拳銃として商業的に初めて成功したのがグロックだ。自国のオーストラリアをはじめ、アメリカ軍特殊部隊やその他各国軍、各国の法執行機関が採用するにまで至っている。しかしトライアルに参加するも、残念ながらアメリカ軍次期制式採用拳銃の座は逃した。だが、その実力は数多くの国や公的機関で採用されている事からも疑いようはない。基本的なメカニズム、デザインを踏襲しながら、様々な口径、サイズのバリエーションを持つグロック・シリーズ。ミリタリーやポリスなど、プロだけでなく、一般のディフェンスガン、コンペティティブ・シューティングをも席巻しているグロックの実力とは？



G L O C K 無 双



CHAPTER.01

開発時から変わらぬ基本設計がその優秀さを物語る グロックというハンドガン

四角い素っ気ないスライドに、樹脂製で自由成形されたフレームの組み合わせ。炭のように真っ黒な拳銃は、従来のどのハンドガンとも異なる存在感だった。装弾数17発。トリガーを引けば即発射可能。ポリマーフレームとストライカー式のシンプルメカニズムで、現代の“ハンドガン”のあり方を改革した1挺。それが“グロック”だ!!

●Photos & Text by TOMO HASEGAWA

“グロック”。各国のミリタリーやポリリスで採用部署を増やし、勢力を拡大。人気を不動のものにしている。総生産数は1911に敵わないとしても、現役稼働率では恐らくトップ……と思われる。それほど各方面で使われている。ガンに興味がある人なら知らない人はいない……今や超有名な拳銃だ。

◆
ポリマー（樹脂製）フレームの拳銃はグロックが最初ではない。だがポリマーフレームで大成した最初の拳銃である事は確かだが、樹脂製だった事が現在のグロック人気の理由ではない。それは優れたデザインにあった。トリガー、ファイアリングピン・セフティ、シアアの3カ所にセフティを配置。携帯時の安全を確実にしながら、トリガーを引くだけで撃発できる、新たなシステムで拳銃のあり方に革新的な要素を持ち込んだのだ。

“コック&ロック”や“グリップセフティ”“ディコッキングレバー”など、グロック以前の拳銃にも様々な安全装置があった。しかし、これらを確実に使いこなすためには、それなりの知識と射撃技術が必要だ。ミリタリーやポリリス、各種法執行機関（LE）に従事する者すべてが銃の扱いに精通しているとは限らない。戦場や事件現場で、安全装置を操作し損なったがために負傷したり、殉職する者が絶えなかった。暴発などトラブルや故障がない事はもちろんだが、「必要な時に迅速かつ確実に弾が発射できる」事こそが、戦闘拳銃に求められる最大の要素だ。セフティなど、銃を扱うには教育が欠かせないが、LEの分野に従事する全ての者に、十分な銃教育を受けさせられないという現実是否めなかった。そこに登場したのがグロックだ。チェンバー（薬室）に弾が装填され

ていれば、トリガーを引くだけで3つのセフティが解除され、弾が発射できる。オートなのにリボルバーのように扱える“簡易な操作性”により、銃の扱いを教育する時間と手間を一気に省く事ができる。グロックの“ケンカ屋”としての強さが求められ、各分野でグロック人気が高まった。そのため、当初は戦闘の専門家達からはグロックは“初心者用”“素人向け”な拳銃として毛嫌いされる事もあった。しかしながら、シンプルで堅牢なメカニズム、メンテナンスしやすい事など、“扱いやすく壊れにくい”という、戦闘銃として基本的な要素を踏まえたデザインで、確実に人気を獲得していった。なかでも特殊部隊方面での伸びが凄かった。それまで特殊部隊用の武器と言えば、1911系に代表される.45カスタムが主流だった。防弾装備を持った相



軍用拳銃の理想を追求してグロックは作られた。現在は各国のミリタリーやポリリスで採用部署を増やし、勢力を拡大。現役稼働率トップ。人気を不動のものにしている。グロック社もともと銃器メーカーではなかった。だからこそ既成概念に捕らわれる事無く、機能的に追求できたのかもしれない。



世界最大の銃器見本市「ショットショー」でも、毎回グロック社のブースは大人気。グロック社の“G”マーク型をモチーフにした巨大カウンターが印象的。



ストライカーもプレイト1個で分解できる。破損トラブルもパーツ交換ですぐ対応可能。戦闘拳銃に求められる大切な性能だ。

手に「9mmではパワー不足」という意見から、ノックダウンパワーに優れた.45口径でプレイトごと倒すという考え方が有力だったからだ。しかし、プレイトを装備していれば、.45であっても相手も倒れない事が判り、一発の威力よりもファイヤーパワー（弾数）に勝る方が有利という考え方へシフト。一発のハードパンチよりも、細かいパンチを数多く当てて、相手を戦意喪失させるというコンセプトがDEVGRUやデルタチームで有力になっていった。同時に中東やアフリカなど砂漠地帯

トリガーバーでファイアリングピンを押し下げ、引き切ると激発。シンプルメカニズムと、ユニットによるパーツ構成で、メンテナンスが容易に行なえる。シンプルだから堅牢で耐久性もある。戦闘拳銃の理想を目指し、グロックはデザインされた。





CHAPTER.05

コンペティション・シューターから見た グロック・シリーズ

シューターにも人気の銃、その利点と欠点。

●Photos & Text by Muneki Samejima

スティールチャレンジ、USPSA / IPSC、ビアンキカップなどのコンペティション・シューティングにおいて、多くのシューター達の間で使用されてきた銃は1911シリーズだ。それが変わり始めたのは、2000年代に入ってからではないだろうか。プロダクション部門と呼ばれる「普通の銃」を使って競技を撃つ部門が設立されたことが大きい。「普通の銃」とは、ダブルアクションのベレッタやSIG、CZ、ストライカー方式のセーフ・アクションの

グロック、XDM、S&W M&Pなどの日常的に使用される銃を示す。車で言えば、レースガンを使用するオープン部門が、フォーミュラカーを使用する部門と言え、プロダクションはカローラを使用する部門だ。この部門でグロックを使用し、多くのメジャーマッチでタイトルを取りまくったシューターと言えば、チーム・グロックの初代キャプテンを務めたデビット・セビグニールだ。それまで、グロックはロウエンフォースメントの間では広く採用され

ていたが、彼がグロックを使用して試合で勝ち続けた事で、グロックがコンペティションの世界で通用する事が証明された。それ以降、コンペティションの世界でのトレンドは、1911とグロック・シリーズが中心となったと言っても過言ではないだろう。それまで1911を撃っていたシューターでさえもグロック・シリーズを無視できない状況となったのだ。今現在、シリアスなコンペティション・シューターにとって、グロック・シリーズは必ずガン

セーフの中にある銃の1つとカウントして良いだろう。

僕自身も初めて撃った実銃の試合で使用した銃がグロック34だ。その当時は、知人の銃を借りて撃っただけだったが、アメリカに住むようになってからも、プロダクション部門用に準備した銃は、やはりグロック34だ。\$600前後で買える本体価格とコンペティションでは複数必要になるマガジンもガスガンと変わらない\$30前後なのは、大きな魅力だった。何より、コンペティ

ガスブローバック・マシンガン M4A1 CARBINE & フルオート電動ショットガン SGR-12



最近の主流であるレールハンドガード搭載モデルに比べると全体的にスッキリとした印象を受ける。そのまま使うもよし、自分好みにカスタマイズするもよし、選択肢の幅は広い。

コルトM4A1

- 全長:777mm/854mm(ストック伸長時)
- 重量:2950g
- 装弾数:35+1発
- 価格:54,800円(税別)

M4シリーズのスタンダード「M4A1」がガスブローバックマシンガン・シリーズに登場!!

ジメジメとした梅雨の季節が過ぎればあのような暑さの夏がやってくる。人間にとって過酷な夏の暑さも、ガスガンにはマガジンやガスタンクの冷えを気にする事なく思う存分満喫出来る絶好の季節というワケだ。

さてそんなガスガンに最高の季節に合わせたように大型モデルが発表された。それが今回紹介する「M4A1」だ。今年の静岡ホビーショーで発表された際にはかなりの話題を呼んでいた。

第1弾モデルである「M4A1 MWS」、そして「CQBR BLOCK1」に続いてよいよM4ファン待望のベーシックモデルの登場とあり、期待はいやが上にも高まる。シンプルに機能性だけを考えるならば、レールハンドガードを装備したM4 MWSやCQBRの方が拡張性も高いし使いやすいだろう。しかし、純粋に銃としての性能として考えるならば、レールマウントは重くて嵩張る

という意見もある。レールマウントはオプティカルサイトを搭載するために必要最低限あれば良い。そういった考え方もアリなのだ。

基本的なメカニズムに関しては従来モデルと大きな違いはない。気温の低い冬場の屋外という劣悪な環境でも快調な作動を可能にするオリジナルのメカニズム「Z-SYSTEM」を搭載したM4シリーズは、シューティングからサバイバルゲームまで各方面からの評価も高く、人気を呼んでいる。今回の「M4A1」も、当然のことながらZ-SYSTEMを搭載。直径19mmのラージサイズシリンダーとの組み合わせにより、実銃に匹敵する迫力のブローバックを可能とした。

アッパー&ロアフレームはアルミダイキャスト製で質感・外観はもちろん、耐久性にも大きく貢献している。着脱式のキャリングハンドルを外せばレールマウントが現われる。ライフルスコープやダットサイトと

いった各種オプティカルサイトの搭載を行なう場合はこちらを利用する。重さや取り回しやすさなどを考えると、シンプル・イズ・ベストなパーツ構成といえるだろう。

ハンドガードは上下分割式のいたってシンプルな樹脂製。レールハンドガードに見慣れてしまっていると、少々物足りないような気もするが、コレはコレで格好イイ。レールマウントがないおかげでフロント回りが軽く、取り回ししやすいのも魅力的だ。アウターバレルはグレネードランチャーなどの装着を考慮してハンドガード内で一段細くなっている初期タイプを採用。アルミ製のヒートガードも再現するなど、目の肥えたマニアを充分満足させるパーツ構成となっている。

一般のユーザーはレールハンドガードを搭載した最新タイプのM4系モデルに注目するが、マニアの場合は何も手が加えられていない真っ新たなスタンダードモデルを好む傾向